

仕事始めに当たって ―プロとしての介護とは―

明けましてお目出度うございます。本年も宜しく願い申し上げます。

私事ですが過日レモネードを作っておりまして、レモンをスライサーでスライスしていましたが、自分の手指の爪と皮膚をわずかに削ぎ落としてしまいました。爪はわずかに幅1mm位長さ4~5mm位でしたが小さくていくら探しても見つかりませんでした。もったいないけれど棄ててしまうかそのまま食べてしまうか一瞬迷いましたがもったいないので食べることに致しました。しかし家族には食べさせるには忍びないので数日かけてそっと一人で食べてしまいました。家族も食べてしまうのではないかと内心ヒヤホヤしながらの小さな冒険でした。

しかし、家族に食べさせるとか売る商品であった場合はもったいないは論外でしょう。そして、この判断の違いがプロか否かの違いでしょう。

目先のもったいない、もっと深いもったいない、等いろいろなレベルのもったいないがありますがいずれにしても「もったいないの心」は大切です。しかし、プロとしてはもったいないの心を棄てても守らなければならないものがあります。

人に分かるかどうか、人に見られているかどうか、を越えた処にプロの判断基準があります。これが「信用」です。私達介護にもプロとアマがあります。プロには信用こそが大事です。

見られていないからついついやってしまう、ということは世間ではしばしばあります。私も101才の老母の自宅介護をしておりますがイライラして対応するなどしばしばあります。赤信号みんなで渡れば怖くない・分からないから大丈夫、これもプロはダメです。

私達プロの介護職としては、もう一人の客観的な自分が常に見ていると思って対応することが基本です。隠してもいづれ分かることですから最初から隠さない、オープンな対応をして職場内でのハウ・レン・ソウが基本です。「天網恢々疎にして漏らさず」と言います。分かって困ることは最初からやらない、隠さない、そして問題は小さい芽のうちに摘み取ってしまうということです、そしてすべてがハッピーになること間違いなしです。

新年を迎えて、プロの介護職として工夫の心を忘れずに、共に頑張っていきたいと思います。

老人保健施設一羊館の理念

利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。

私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。

私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。

